

優秀賞

幸せのやさしい音色

愛媛県 岡本小枝

チリンチリン、階下から聞こえる音に急いで祖母の部屋に下りると祖母はベルを手に、「トイレ、連れて行ってや」と一言。

私は祖母をベッドから起こすと座った姿勢にし祖母の両脇に両手を差し込み立ち上がらせようとしました。けれど祖母は思いのほか重く立ち上がることはできませんでした。

せえーの！ 大きな掛け声と共に全身に思いっきり力をこめるとどうにか立ち上がれました。けれどベッド横のポータブルトイレに向きを変えるのが大変で90になる祖母の足は一步たりとも動かないのです。

「おばあちゃん、足動かしてよ」

「そう言うたっちそれができんのよ」

私は少しイラつきながら両手で祖母の両脇を抱えたまま、自分の右足で軽く祖母の足を蹴ると少しずつ向きを変えていきどうにかポータブルトイレの正面にまで来させることができました。後は紙パンツと尿パットを足首まで下ろしてやると祖母をトイレに座らせ無事用を足すことができました。

ただ立って座って用を足す、それだけがこんなにも大変な事だったなんて。私は思わず「ふー」と大きなため息をついてしまいました。けれども祖母は「ありがとう、すっきりしたで」とうれしそうに笑っています。笑顔で祖母にありがとうと言われて介護の大変さなんてどこかに吹っ飛んでしまいました。

夕方帰宅した母に祖母のトイレ介助ができたことを話すと、

「まあしてくれたの、ありがとう」

ここでも母の笑顔とありがとう、です。今まで介護なんて自分には関係ないと思っていたけれど。初めてのトイレ介助で介護の大変さを知り、同時にありがとうという言葉がこんなにも人の心に響く言葉だったのかと改めて気づかされました。今も毎日祖母のベルは部屋中に響き渡っています。何気ないベルの音が私にはまるで祖母の元気とありがとうという心の温かさまでも運んできてくれているようで、まるで幸せを運ぶやさしい音色のように聞こえています。